

「生命(いのち)と女性の手帳(愛称別途検討)」の作成・配布に関する意見

私たち「SOSHIREN 女(わたし)のからだから」は、内閣府開催の「少子化危機突破タスクフォース」が提案している「生命(いのち)と女性の手帳(愛称別途検討)」ⁱ (以下「手帳」)の作成・配布に、以下の理由から強く反対します。

1) 「手帳」は、産むこと、産まないことを選択、および自らの性／生をどのように生きるかを選択する女性の自己決定権を侵害します。

私たちは、子どもを産むか産まないかを国が管理・強要することに反対し、ひとりひとりの女性の選択が尊重されるべきと考え、リプロダクティブ・ライツ (性と生殖の権利) の確立に取り組んできました。導入されようとしている「手帳」は、「少子化対策」を目的として、女性に「母となること」を推奨し、そのために「健康を管理」するⁱⁱものと予想されます。それは女性の選択権やリプロダクティブ・ライツを侵害する人口政策になりかねません。

また、「少子化危機突破タスクフォース」は、「結婚・妊娠・出産支援」を大きな柱として打ち出すという方針を表明していますⁱⁱⁱ。これは、「子どもを増やしたい」という国の方針^{iv}のもと、女性を「産む性」として位置づけ、いかにその「機能」を発揮させるべく若いうちから^v「教育」するか、そして結婚に導き^{vi}高齢になる前に出産させるかという観点^{vii}に基づいており、どう生きるかを女性が自ら決める権利を侵害します。

このように結婚・妊娠・出産が過大に推奨される中で、それを選ばない／べない「女性」たちの性／生が著しく不当に価値のないものとされるのではないかと警戒せざるをえません。同時に、異性愛の結婚・妊娠・出産こそが正しい性／生のあり方であると強いることになり、レズビアン、バイセクシュアルとされる女性たちや、トランスジェンダーとされるひと、性同一性障害を抱えるひとたちが、自らの尊厳を持つこと、ひいては自己肯定的な生存すらも困難にさせます。これは重大な人権侵害です。

自らの性／生をどのように生きるか、産むか産まないかを選択することは個人の尊厳そのものであり、尊重されるべき人権です。「手帳」の導入に代表される「価値観の押しつけ」と、「産むこと」を前提として「女性の生き方／健康を管理する」ことに強く抗議します。

2) 少子化の原因が「女性の生き方」にあるかのように矮小化し、責任を女性に押し付けることに重大な懸念を表明します。

子どもがほしい人・カップルがたくさんいるにもかかわらず、現象として「少子化」が起きているのは、産みたい、あるいは産んでも大丈夫だと思える社会ではないからです。

「少子化危機突破タスクフォース」の開催趣旨として、「結婚・妊娠・出産・育児における課題の解消を目指す」ことが挙げられ^{viii}、妊娠・出産・育児をめぐる環境の整備が課題とされることには一定の評価も可能でしょう。しかしながら、その一環としての「手帳」の導入は、タスクフォースが「少子化」の原因を「女性の生き方」にあるととらえ、女性を「啓発」することで解決できると考えていることを意味します。

このように、産み育てるための環境の整備不足の原因を分析することなく、その対策を、「女性の生き方」の問題に矮小化することは、明らかな議論の横滑りであると同時に、根本の問題から目をそらすことであり、手帳の作成・配布によって一定のタスクが達成されたかのように見せかける、安易でおせっかいな政策です。また、女性をとりまく諸問題 (非正規

雇用の蔓延、長時間労働、男女の賃金格差、貧困、セクシュアルハラスメント、暴力、家事負担の強制、婚外子差別、保育所不足など）を排除しつつ、「産む」ことのみが強調され賛美されている背景には、タスクフォースの強い性差別意識が働いていると考えざるを得ません。

1) で述べたように、「女性の生き方」に国が介入すること自体がすでに重大な人権侵害ですが、これに加え、少子化の責任を女性に転嫁する考え方に強く抗議し、「手帳」の導入に反対します。

2013年5月19日

SOSHIREN 女(わたし)のからだから

東京都新宿区富久町8-27ニューライフ新宿東305
電話・FAX 03-3353-4474

-
- i 少子化危機突破タスクフォース『妊娠・出産サブチーム報告』p3
http://www8.cao.go.jp/shoushi/taskforce/k_3/pdf/s4.pdf
 - ii 少子化危機突破タスクフォース『妊娠・出産サブチーム報告』
p3; 妊娠適齢期等妊娠・出産知識や支援情報等を記載するとともに、自らの健康データ等を記録。
p5; 妊娠適齢期等妊娠・出産に関する知識や妊娠・出産支援に関する情報を記載した「啓発・学習部分」と、自らの健康データ等を記録する「記録部分」の2部構成を想定。
p5; 紙媒体だけでなく、スマートフォンのアプリとする、定期的なアラートを伝えるといったネットを活用した媒体も検討
 - iii 少子化危機突破タスクフォース『妊娠・出産サブチーム報告』p2
 - iv 『第1回議事概要』p4を見ると、鈴木委員から「産めよ殖やせよというメッセージにならないように」との認識が提示されたようですが、『サブチーム報告』で提示されている「基本方針」および「主な方策 (I)」にこのような視点は反映されていません。
 - v 少子化危機突破タスクフォース『妊娠・出産サブチーム報告』
p5; 例えば、子宮頸がんワクチン接種時、高校・大学入学時、成人式、企業就職時など、思春期から機会を捉えた複数回の配布を想定。
 - vi 少子化危機突破タスクフォース『第1回議事概要』
http://www8.cao.go.jp/shoushi/taskforce/k_1/pdf/gijigaiyou.pdf
p5; 原田委員「結婚することに対する啓発活動というものがもう少し議論されてもいい」
p5; 松田委員「結婚、出産のこと、仕事のこと、家庭の大切さとか、やはり教育というものが大事だ」
少子化危機突破タスクフォース(第3回)『資料1 吉村委員提出資料2/6』p8
http://www8.cao.go.jp/shoushi/taskforce/k_3/pdf/s1-2.pdf
 - vii 上記 ii 参照
 - viii 『少子化危機突破タスクフォースの開催について』「1. 趣旨」<http://www8.cao.go.jp/shoushi/taskforce/>